

比較の表現及び追加の表現におけるハワイ語の方向 詞akuとa'e

| | |
|--------------------|---|
| その他（別言語等） のタイトル | Hawaiian directionals aku and a'e in comparative expressions and additional expressions |
| 著者 | 塩谷 亨 |
| 雑誌名 | 北海道言語文化研究 |
| 巻 | 6 |
| ページ | 81-94 |
| 発行年 | 2008-03-21 |
| URL | http://hdl.handle.net/10258/708 |

比較の表現及び追加の表現におけるハワイ語の方向 詞akuとa'e

| | |
|--------------------|---|
| その他（別言語等） のタイトル | Hawaiian directionals aku and a'e in comparative expressions and additional expressions |
| 著者 | 塩谷 亨 |
| 雑誌名 | 北海道言語文化研究 |
| 巻 | 6 |
| ページ | 81-94 |
| 発行年 | 2008-03-21 |
| URL | http://hdl.handle.net/10258/708 |

比較の表現及び追加の表現におけるハワイ語の方向詞

aku と a'e*

塩谷 亨

Hawaiian Directionals *aku* and *a'e* in Comparative Expressions and Additional Expressions

Toru Shionoya

要旨 : There are many types of comparative and additional expressions in Hawaiian, where directionals are often used. This suggests some semantic connection between comparative expressions and additional expressions. Hawaiian has four directionals, among which *aku* 'away' and *a'e* 'upward' are found in comparative and additional expressions very often. This paper gives an outline of comparative expressions and additional expressions with those two directionals. They are similarly used in comparative expressions meaning "A is more ... than B" and "A is B (numerical value) or more" and additional expressions meaning "other/another/ different/next...". On the other hand, only one of them is found in some types of expressions. The directional *a'e* is found in comparative expressions meaning "A becomes more ...", while the directional *aku* is found in additional expressions meaning "there are more ..." and "...and so on".

キーワード : Hawaiian, Directionals, Comparison, Addition

1. はじめに

1.1. 比較表現と追加表現

本稿では、何らかの度合いについて、ある基準となる点から見て高い（又は低い）ことを述べる表現を総称して比較表現と呼ぶことにする。例えば、「AさんはBさんより重い」は重さという度合いについて、Aさんが基準値（Bさんの重さ）よりも高いところに位置していることを表す比較表現である。

また、一つの集合体を提示した上で、その集合の外に位置する要素を新たに登場させる表現を便宜上、追加表現と呼ぶことにする。例えば、「アジアの国々とその他の国々」という表現の中の「その他の国々」という表現は、先に提示された「アジアの国々」という集合の外に位置する国々を新たに登場させる追加表現の

例である。

これら二つの表現には意味的に共通点がある。比較表現は、ある基準点があり、その基準点を超えている、或いは下回っているということの意味をしている。一方、追加表現では、ある集合があり、その集合範囲から外れる要素を導入するものである。すなわち、両者とも、ある基準或いは集合という何らかの範囲を設定し、そこから外れるということの意味をしている点で共通している。

このような意味的な類似点は表現の形式にも反映している。例えば、英語においては、比較表現で設定する基準と、除外表現で設定する集合は同じ前置詞 *than* で表される。

- (1) taller than Tom 「トムよりも背が高い」
- (2) people other than lawyers 「弁護士以外の人々」

本稿で扱うハワイ語を始めとするポリネシア諸語でもこのような比較表現と除外表現には形式上の類似が見られる。

1.2. ハワイ語の方向詞

方向詞はポリネシア諸語に広く見られる語類であり、他の語類とは統語的にも区別される独立した閉じた語類である。方向詞の数については言語によって差異があるが、最も広く分布しているのは、それぞれ、「話者に近づく方向に」、「話者から離れる方向に」、「上方に」、「下方に」を表す四つの方向詞である。ハワイ語にも以下の(3)に示す四つの方向詞がある。

- (3) *mai* 「話者に近づく方向に」 *aku* 「話者から離れる方向に」
a'e 「上方に」 *iho* 「下方に」

方向詞の基本的な意味は、文字通り、方向性である。例えば、ハワイ語の *lele* 「飛ぶ」という動詞の場合は、これに話者に向かう方向を表わす方向詞 *mai* を添えて *lele mai* とすると「話者又は話者の視点の方に向かって飛んで来る」という意味を表し、一方、話者から離れる方向を表わす方向詞 *aku* を添えて *lele aku* とすると「話者又は話者の視点から離れる方向へ飛んでいく」という意味を表す。また、下へと向かう方向を表わす方向詞 *iho* をつけて、*lele iho* とすると、「下方に飛ぶ(陸から水に飛び降りる場合など)」を表わし、また、上へと向かう方向を表わす方向詞 *a'e* をつけて *lele a'e* とすると「上方へ飛ぶ(空に向かって鳥が飛ぶ場合など)」を表わす。

方向詞の用法のうち、上記のような方向性という意味に関連する基本的な用法に次いで、最も頻繁に用いられるのは、時間的な距離(過去の遠近など)を示す用法である。これに関連しては、Cook(1996)がハワイ語の方向詞の時間的な用法

を身体的経験と関係付けて論じている。

それらに次いで方向詞がよく用いられる用法が、比較表現である。Elbert and Pukui (1979:93)では比較級として使われる方向詞と明確に言及されているのは a'e のみであるが、Pukui and Elbert (1986:15)では aku も比較表現に用いられることが示されている。Cook et al.(2005:41)では比較表現の例に iho も挙げられている。更に、塩谷(2007:20)で mai も含めた四つの方向詞全てが比較表現に用いられることが示された。

1.3. 本稿の目的

塩谷(2007)では、ハワイ語の四つの方向詞のうち、mai と iho は A<B の比較 (A が数量的に、大きさ、多さ、高さ等に関して、B より少ない状態を表わす比較表現) で用いられ、aku と a'e はその他諸々の比較において用いられることを示した。本稿では、mai や iho よりずっと高い頻度で用いられる aku と a'e の二つを取り上げて、より詳細にどのような形式の表現で用いられるのか見ていく。

本稿の主たる目的は次の二つである。i) ハワイ語の方向詞 aku と a'e はそれぞれどのような形式の比較表現と追加表現において用いられるのか、両者の用法の差異の有無について示す。ii) 1.1 節で述べたように、英語などにも見られる比較表現と追加表現の形式的な類似の例がハワイ語でも広く見られることを示す。

1.4. 例文の正書法と訳

本研究では伝説、歴史文化、法律、新聞記事、会話表現集など様々なジャンルのハワイ語文献から例文を収集し、データとして用いた。用いた分析データには二種類の正書法によるデータが含まれている。一つは現在学校等で教えられている正書法で長母音を示すマクロン (例: ū など)、声門閉鎖音を示す記号 (例: 'ai の ') は全て省略せずに表記するものである。もう一つは、主に古い文献で用いられている正書法で、長母音を示すマクロンや声門閉鎖音を示す記号は原則省略するものである。本稿で例文を提示する場合には、基本的に原典で採用されている正書法に従う。二種類の正書法が提示されている文献からのデータについてはマクロンや声門閉鎖音を表す記号等が省略されない方の正書法で提示する。

訳については、原典に英訳が付いているものは英訳を提示した上で、ハワイ語の原文からの日本語の直訳を提示した。原典に英訳が付いていないものは日本語の直訳のみ提示した。Malo (1987)については Emerson (Malo (1951))による英訳を提示した上でハワイ語原文からの日本語の直訳を提示した。

2. 方向詞 aku と a'e を用いる比較の表現

2.1. 三つのタイプの比較表現

本稿では、ハワイ語の比較表現について、その表す意味に基づき三つのタイプに分類する。その三つのタイプに相当する典型的な日本語の例文はそれぞれ、次の三つである。

- (4) 太郎は次郎より重い
(5) 太郎がもっと大きくなったらお小遣いを値上げしてあげよう
(6) 3メートルかそれ以上

本稿では、これらの三つの比較表現について、それぞれ英語の表現を借りて、<A is more ~ than B タイプ>、<A becomes more ~タイプ>、<A is B(数値) or more タイプ>と呼ぶことにする。

例(4)のように、何らかの度合いについて A と B という別個の二つの者の間で比較する典型的な比較表現を<A is more ~ than B タイプ>と呼ぶ。例(5)のように、別個の二者間の比較ではなく、同じ者の二つの状態（ここでは、同じ太郎という人間の現在の状態と未来の状態）を比較する表現を<A becomes more ~タイプ>と呼ぶ。また、例(6)のように、何らかの数値が示された後で「それ以上」のような意味を表す表現を<A is B(数値) or more タイプ>と呼ぶ。

2.2. <A is more ~ than B タイプ>

別個の二者間の比較をする典型的な比較の表現である。このタイプの表現で最も多いのは Hopkins (1992:136)のような教科書にも載っている、動詞 '*oi*「秀でている」を用いる比較構文である。<'oi+aku/a'e A ma mua o B>という構造で、「A は B より～だ」という意味を表わすのに用いられる。¹ 比較の基準<B よりも>にあたる部分は *ma mua o B*（文字通りには「B の前に」）で表される。

- (7) ...a ua oi _____ aku kona nui mamua o ko na holoholona
and TAM superior DIR his big in front of POS PL animal²
ano popoki a pau ma Amerika.
kind cat all at America
'...and he is the largest of all cats in America.'

その大きさはアメリカの全ての猫の種類よりも秀でている。(Mookini 1985:101)

- (8) ..., he wahune u-i a maikai keia, ua oi _____ ae no hoi
TAM³ woman beautiful and good this TAM superior DIR INT
kona maikai mamua o kona makuahine.
her good in front of her mother
'..., a beautiful and a good woman, better even than her mother.'

これは美しくすばらしい女性だ、彼女のすばらしさは彼女の母親より本当に秀でている。(Fornander 1918-9:579)

このタイプに属すると考えられる例文の数を比較した結果、Mookini (1985)では '*oi aku* が 24 例で '*oi ae* は 0 例、また、Ka Ho'oilina (2002), (2003), (2004)の本文部分で得られた例文の合計は '*oi aku* が 32 例で '*oi a'e* は 1 例と、'*oi aku* の方が優勢ではあったが、'*oi a'e* につ

いても少ないながらも例文が得られた。

頻度的にはより少ないが、‘oi を用いず、方向詞だけでこのタイプの比較表現を作ること
ともできる。<状態動詞⁴+aku/a‘e>のような構造で、「より～な」という意味を表わす。

(9) Ua like ke kiekie o ke Kamelo, me ke kanaka,

TAM be like the high of the camel with the human

a ua kiekie aku kekahi kamelo.

and TAM high DIR some camel

'The height of a camel is like that of a human, though some camels are taller.'

らくだの高さは人間と同じだが、あるものはより高い。(Mookini 1985:24)

(10) ...he nui ae ke kino o ka Nunu, a he uuku iho ko ka Naio,...

TAM big DIR the body of the Nunu and TAM small DIR POS the Naio

Nunu 鳥の体はより大きく、Naio 鳥のはより小さい。(Kuokoa 1863/6/6)

この<状態動詞+aku/a‘e>という形は比較表現が名詞の直後に来る修飾語となる場合にもよく用いられる。

(11) Nā mea nui aku i kēia

PL thing big DIR to this

'things larger than this'

これより大きなもの (Pukui and Elbert 1982:15)

(12) O na [a]lii nui ae, a nui kona mau kanaka, e nui no kona haawina....

NC PL chief great DIR and many his PL people TAM big INT his portion

'To the more important chiefs, with many followers, was given a large portion;'

より偉大な貴族たちは、その民も多く、その割り当ても大きい。(Malo 1987:97)

2.3. <A becomes more ～タイプ>

このタイプは別個の二者間の比較ではなく、同じ者の二つの状態の比較を表すものである。形式は<状態動詞+a‘e>である。最も多く見られたのが子供がより大きくなる(=成長する)という意味で nui a‘e 「より大きい」を用いた例である。

(13) Hanau ke keiki; he kino uuku ia; a nui ae, he kino kamalii;

born the child TAM body small it and big DIR TAM body child

'When a baby is born it is called a child; when it grows bigger it is called a youth;'

子が生まれる、それは赤子だ、より大きくなると、子供だ。(Fornander 1916-7:459)

ここでは、同じ一人の人間について、生まれたばかりのまだほんの小さい状態を基準に、それと比較して「より大きい」状態を表わすのに nui a‘e 「より大きい」を用いている。

同様の例が Fornander (1916-7)、(1918-9)、Ka ho'oilina (2002:358)、(2003:124)、Malo (1987:93) などでも発見された。いずれも *nui a'e* は人や動物が大きくなる (=成長する) という場合に用いられる表現である。また、同様の意味用法で *nui* の代わりに別の状態動詞 *māhuhua* 「成長する」を用いた例も (Ka Ho'oilina 2002:174) で得られた。方向詞 *a'e* の基本的な意味は「上方へ」である。成長する場合には物理的にも身長が上へ伸びるということを考えると、方向詞 *a'e* は比較表現ではなく、単に「上へ (成長する)」という基本的な方向性の意味を担っているだけではないかという可能性もあるかもしれない。しかしながら、「上へ」という方向性に無関係な場合で *nui a'e* が用いられている例も得られた。

(14) E olelo nui ae, aohe o'u lohe.

IMP speak big DIR no my hear

'Speak louder, I cannot hear.'

より大きく話しなさい、私には聞こえません。(Hawaiian Phrase Book:54)

ここでは明らかに同じ人物の声の現在の状態を基準として、それよりも声の大きな状態ということを表わしている。

このように、<A becomes more ~タイプ>の用法として *nui a'e* が用いられている例は複数の文献で発見されるが、*a'e* ではなく *aku* がこの同じ用法で用いられた例とみなし得る例は発見できなかった。

2.4. <A is B(数値) or more タイプ>

A の値が B という基準の数値以上である、ということを示す比較表現である。最もよく見られる形式は <B(数値) a oi aku/a'e A> で意味は「A は B 以上だ」となる。⁵

(15) He kanaha a oi ae ko lakou nui.

TAM 40 and superior DIR POS they many

'They were a little more than forty men.'

彼らの数は 40 人以上だ (Fornander 1918-9:499)

このタイプは意味的には 2.2 節でみた <A is more ~ than B タイプ> と類似している。例えばこの例では 40 を基準点と考えて、*ko lakou nui* 「彼らの数」と 40 を比較して彼らの数のほうがより大きいということを意味していると考えれば、<A is more ~ than B タイプ> の変種として考えることも出来る。しかしながら、<A is more ~ than B タイプ> では何らかの度合いについての明確な二者間の比較であるのに対し、<A is B(数値) or more タイプ> は二者間の比較というよりも、或る一つの者について、その者に関する何らかの値と、ある基準となる数値との比較であるという点で異なっている。

このタイプで用いられる *aku* と *a'e* の頻度については、今回は特に顕著な差異は観察さ

れなかった。aku を用いた例は以下のとおりである。

- (16) Oia hoi he tausani ia makahiki a oi aku,
that INT TAM 1000 that year and superior DIR
mamua o ka puka ana mai o na Kalawina maanei.
before the come out NOM DIR of PL Calvinist here
'...over a thousand years before the Protestants came here.'
カルバン派がここに来る前、1000 年以上。(Beckwith 1932:99)

同様の意味で、'oi ではなく nui を用いて、< B(数値) a nui aku > 「B 以上」という意味を表わしている例も見つかった。

- (17) ... eha, elima la, a nui aku.
4 5 day and many DIR
'...four or five days or even longer.'
4、5 日かそれ以上。(Fornander 1918-9:571)

3. 方向詞 aku と a'e を用いる追加の表現

3.1. 追加表現のいろいろ

追加表現については、その表す意味により大きく二つに分類する。第一は、「他の～」、「別の～」、「次の～」のように、既に提示された一つの集合体の外に位置する要素を新たに登場させる追加表現である。第二は、「他にもいろいろある」、「～等々」のように、新たな要素を登場させるというよりも、ある事について一通り述べた後で、まだ言い尽くしていない、他にもまだ追加すべきことが残っているということを表す表現である。

3.2. 「他の～・別の～・次の～」

状態動詞 'ē 「異なる」の後に方向詞 a'e/aku を付けた < ~ 'ē a'e > と < ~ 'ē aku > の二つの形が「他の～・別の～」という意味の表現として用いられる。

- (18) ...aole nanaia lakou ma ke ano like me ka poe e ae.
not regarded they at the kind like with the people different DIR
'...they are not regarded as like other people.'
彼らは他の人々と同じようには見られない。(Beckwith 1932:145)

- (19) ... a koho 'ia kekahi po'e 'ē aku paha
until choose PAS some person different DIR perhaps
e pani i ko lākou hakahaka.
TAM fill ACC POS they vacancy

'...until other persons shall be appointed in their stead.'

多分彼らの空席を埋めるために他の人々が選ばれるまで。(Ka Ho'oilina 2003:54)

このように<~ 'ē a'e>と<~ 'ē aku>の両方が用いられるのだが、その使用頻度は圧倒的に<~ 'ē a'e>の方が多い、例えば、Ka Ho'oilina (2002), (2003), (2004)に登場したこの意味用法の<~ 'ē a'e>の例は合計 67 例もあるのに対し、<~ 'ē aku>はわずか 5 例であった。また Beckwith (1932)では、全て<~ 'ē a'e>のみで、<~ 'ē aku>の例は発見できなかった。

また、数は少ないが、状態動詞'e「異なる」ではなく、別の状態動詞'oko'a「異なる・別個の」の後ろに方向詞 a'e が付いた形の例も得られた。

(20) ... me kekahi unuhina ano okoa ae, ...

with some interpretation somewhat different DIR

'... with somewhat different interpretation,...'

幾分異なる解釈でもって。(Fornander 1916-7:395)

以下では、方向詞 a'e/aku が「次の」という意味を表す表現で用いられる事例についてみる。以下の用法については、追加表現という用法以外の方向詞の用法、時間的な用法や空間的な用法とも一部重なる用法である。⁶

状態動詞 hou「新たな」の後ろに方向詞 a'e/aku を付けた<~ hou a'e/aku>という形で「次の～・他の～・別の」という意味を表す追加表現がある。⁷

(21) Mai makemake oe i kane hou aku.

don't desire you ACC husband new DIR

'Desire not another husband.'

別の夫を望んではいけない。(Hawaiian Phrase Book:84)

(22) Aohe kauoha hou ae a ke 'lii ia oe?

no order new DIR of the chief to you

'Was there no other instruction of the king to you?'

お前に対する君主の他の命令はないのか (Fornander 1918-9:715)

<~ hou a'e>と<~ hou aku>の両者をあわせても例文数は多くなく、両者の間に顕著な差は確認できなかった。会話でよく使われる表現「次は何/誰？」のような表現においても両者は同じように使われる。

(23) Heaha hou aku?

what new DIR

'What next?'

次は何。(Hawaiian Phase Book:103)

(24) 'O wai hou a'e?

NC who new DIR

'Who will be next?'

次はだれ。(Pukui and Elbert 1986:3)

また、以下の例(25)、(26)のように、Pukui and Elbert (1986:488)では方向詞 a'e と aku だけで「次の」という意味を表す例も示されている。

(25) kekahi hale aku nō

some house DIR INT

the next house

隣の家

(26) kekahi hale a'e

some house DIR

'the next house'

隣の家

その他、方向詞 a'e が単独で「次の」のような意味を担う例として、いろいろな時間に関連する単語の後ろに付加されて「来週、次の日」など時間の表現として用いられる例が多数ある。

(27) kēia pule a'e

this week DIR

'next week'

来週 (Pukui and Elbert 1986:488)

(28) I kekahi lā a'e,

the next day

次の日 (Beckwith 1911-2:411)

3.3. 「他にもいろいろある」、「～等々」

具体的に新たな要素を追加する表現ではないが、ある事について一通り述べた後で、まだ言い尽くしていない、他にもまだ追加すべきことが残っているという場合に用いる慣用表現の中に方向詞 aku が用いられるものがいくつかある。状態動詞 nui「多い」を用いて、<he nui aku A>の形で「Aには他にもいろいろある」という意味の表現がある。

- (29) He nui aku no na hana a ke ahi aole e pau i ka weheweheia aku,
TAM many DIR INT PL use of the fire not TAM finished in the explained DIR
nokamea he uuku ka manawa.
because TAM small the time
'the fire has various other uses; they can not all be explained because the time is limited'
火の使い方にはまだ他にもいろいろある、時間が少ないので、説明しつくせない。
(Fornander 1918-9:565)

例(29)では、いろいろな火の使い方を説明した後に、まだ他にも色々あるのだけれど、時間の都合で全部は紹介できない、という趣旨を述べている。この意味用法で、*aku* の代わりに *a'e* を用いた例は今回発見できなかった。

いろいろなものを列挙した後に、文の終わりに付けて、「～その他」、「～等々」のような意味を表す慣用表現の一つが、<.....a *pēlā aku*> である。*pēlā* は「そのように」という意味の単語である。

- (30) ...haawi mai o Kaulu, hookahi huli kalo, hookahi lau uala, hookahi puaa, hookahi moa, a pela aku no.
'...so he gave them one taro top, one potato leaf, one hog, one chicken and so on'
Kaulu はタロの芽一つ、サツマイモの葉一つ、豚一頭、鶏一羽、等々を与えた。
(Fornander 1916-7:627)

このような意味用法で、方向詞 *a'e* を用いた <.....a *pēlā a'e*> という形の例は今回発見できなかった。

もう一つ、「～その他」、「～等々」という意味で使われる慣用表現として、<*ia ~aku ia ~aku*> という形で「その他いろいろな～」の意味を表すものがある。これも上述の <.....a *pēlā aku*> と同様に、いろいろなものを列挙した後に、文の終わりに付加される。

- (31) He nui loa na helehelena o na io, he loihi, he pokole,
TAM many very PL appearance of PL muscle TAM long TAM short
he palahalaha, he ahalike, he huinakolu, he poai, he pea,
TAM flat TAM square TAM triangle TAM circle TAM cross
ia ano aku, ia ano aku;
that kind DIR that kind DIR
'Muscles have many variations in appearance: long, short, flat, square, triangular, circular, crisscrossed, and so on;'
筋肉の外見はとても多数ある、長い、短い、平ら、四角、三角、丸、十字、その他いろいろな種類がある。(Ka Ho'oilina 2005:145)

この慣用表現についても、aku の代わりに a'e を用いた形は今回発見できなかった。

4. まとめ

4.1. aku と a'e の用法の差異

比較表現及び追加表現の用法のかなりの部分において、aku と a'e の両方が同様に用いられていたが、一部、aku の a'e の片方が専ら使われるものもあった。

比較用法としては、別個の二者間の比較をする 2.2 節の〈A is more ~ than B タイプ〉と、A の値が B という基準の数値以上であるということを示す 2.4 節の〈A is B(数値) or more タイプ〉では、頻度の差はあったものの、aku と a'e の両方が同様に使われていた。ところが、同じ者の二つの状態の比較を表す 2.3 節の〈A becomes more ~タイプ〉では専ら a'e を用いた例であった。

追加表現においては、3.2 節の「他の～」、「別の～」、「次の～」のように、既に提示された一つの集合体の外に位置する要素を新たに登場させる追加表現では aku と a'e の両方が同様に使われていたが、3.3 節の「他にもまだ追加すべきことが残っている」事を表わす追加表現では専ら aku を用いた例であった。

上記の結果をまとめると次の表 1 のようになる。

表 1 比較表現・追加表現で主に使われる方向詞

| | | |
|------|------------------------|-----------|
| 比較表現 | A is more ~ than B タイプ | aku / a'e |
| | A becomes more ~タイプ | a'e |
| | A is B(数値) or more タイプ | aku / a'e |
| 追加表現 | 他の～・別の～・次の～ | aku / a'e |
| | 他にもいろいろある・～等々 | aku |

しかしながら、全体としては、aku と a'e の両方とも、比較表現及び追加表現で用られる方向詞であることには違いない。

4.2. 比較表現と追加表現の形式的な類似性

比較と追加の意味的な共通点については既に 1.1 節で述べたが、それを反映する形で、ハワイ語においても、両者の間に形式的な類似性が観察された。比較表現と追加表現の表現において、aku (基本的な意味は「離れる方向に」) と a'e (基本的な意味は「上方に」) の二つの方向詞が使われていて、そのうちの多くの部分において、aku と a'e が同じパターンの表現内の同じ位置で用いられていた。これは、ハワイ語においては、比較についても追加についても、「離れる方向に」或いは「上方に」という同様な方向性と関連付けて捕らえていることを示している。

4.3. aku と a'e の基本的な意味と比較・追加との関連についての説明の試み

この節では、aku と a'e の比較表現と追加表現における用法について、それぞれの基本的な意味との関連付けを試みる。方向詞 aku の基本的な意味は「離れていく方向」、a'e

の基本的な意味は「上方」と考えた上で、それらの意味が、どのように比較・追加の用法と関連付けられるか、一つの試案を提示する。

まず、a'e と aku の両方が何らかの比較表現・追加表現に用いられているということについての説明を試みる。a'e と aku の「上方」と「離れて」という基本的な意味から、それぞれ、「基準・範囲を超える」或いは「基準・範囲を離れる」という意味が派生すると考える。そして、「ある基準を超える・ある基準から離れる」ことが比較の意味に、「ある範囲を超える・ある範囲から離れる」ことが追加の意味にそれぞれ結び付けられると考える。以上のことは表2としてまとめられる。

表2 aku と a'e に共通する用法

| | | | | |
|---------|---|---------|---|----|
| a'e 上方 | > | 基準を超える | ⇒ | 比較 |
| aku 離れて | | 基準から離れる | | |
| a'e 上方 | > | 範囲を超える | ⇒ | 追加 |
| aku 離れて | | 範囲から離れる | | |

次に a'e と aku の間で差異が見られる用法についての説明を試みる。a'e が用いられる比較表現の<A becomes more ~タイプ>は異なる二者の比較ではなく、同じ一つのものの二つの状況の比較である。すなわち、ある既定の状況があり、その同じものの上に変化が生じた結果としての別の状況と比較するものである。そこで、a'e の基本的な意味「上方」から、累加（上に積み重なる）という意味が派生し、それが<A becomes more ~タイプ>に結び付けられると考えられる。aku が用いられる追加表現「他にもいろいろある・~等々」については、ある既定の範囲があり、その範囲がさらに外へ広がっていくということを表している。aku の基本的な意味「離れていく方向」から「拡張」という意味が派生し、それがこの用法に結びつけられると考える。これらの二用法については表3のようにまとめられる。

表3 aku と a'e で差異がある用法

| | | | | |
|---------|---|---------------|---|---------------------|
| a'e 上方 | > | 累加（上に積み重なる） | ⇒ | A becomes more ~タイプ |
| aku 離れて | > | 拡張（範囲が広がっていく） | ⇒ | 他にもいろいろある・~等々 |

3.2 節で示した用法のうち、「次の」という意味を表すものについては注6でも述べているように、方向詞の時間的な用法、或いは空間的な用法の一部として分析することもできるかもしれない。だが、既にある（最初の）要素に新しい（次の）要素を追加すると考えれば上記表2の追加用法の一つの中に含めることができる。

4.4. 今後の課題

今回提示した諸用法のうち、例えば、3.2 節の 'ē a'e と 'ē aku のように同じ意味用法で、しかも、a'e と aku が同一の位置で交替するような場合が多く見られた。a'e を使った場合と aku を使った場合に、本当に意味的な或いはニュアンス的な差は全くないのか、も

しないとしても、方言の差、文体の差、或いは新旧の差（どちらかが古風な言い方である等）はないのか、ということについて、更にデータを拡充して見ていく必要がある。

今回は、四つの方向詞のうち、比較と追加表現でかなり頻繁に用いられる *aku* と *a'e* の二つを取り上げた。残る二つの方向詞、*mai*「近づく方向へ」と *iho*「下方へ」は例文も少ないため、今回は除外したが、これについても、今後データを拡充して見ていく必要がある。

謝辞

* 貴重なコメントをいただいた査読者の方に、謝意を申し上げたい。本稿は平成17年度～18年度文部省科学研究費補助金基盤研究(C)(一般)「ポリネシア諸語における四つの方向詞の意味・機能に関する対照研究」(課題番号17520247)による研究成果の一部を拡張したものである。

注

¹ 方向詞の付加がなくても *'oi* だけで比較表現を作ることができる。例文については塩谷(2007:20)等を参照。また *ma mua o B* の部分は文脈から明白であれば省略される場合もある。

² 本稿で用いる略語は以下の通りである。ACC: accusative marker, DIR: directional, IMP: imperative, INT: intensifier, NC: Neutral case marker, NOM: nominalizer, PL: plural, POS: possessive, TAM: tense aspect marker,

³ *he* は動詞や名詞の前に付加される小辞であるが、かつては不定冠詞と分析されていた単語である。(Pukui and Elbert 1986:62) 参照。これについては、様々な分析がなされてきたが、現在の私の分析では、この *he* は時制・相マーカ―と同じ語類に属する単語で、属性を表すものであると考えている。従ってグロスには TAM と表記した。

⁴ 状態動詞は状態を表わす動詞である。英語では形容詞や副詞で表わす意味はハワイ語では主に状態動詞で表わされる。

⁵ 方向詞を用いず、*B a 'oi* だけで「B以上」を表わすこともある。

⁶ 方向詞には、比較や追加以外に、空間的な方向や位置を表わす用法、時間的な方向や位置を表わす用法がある。「次の」という意味を表す方向詞の用法には、追加表現とみなすべきなのか、それとも未来を表す時間的な用法とみなすべきなのか、或いは空間的な用法なのか、明確に区切ることは難しいものが含まれている。Cook (1996:457)では、「次の」という意味の *a'e* の用法について、〈現在時と隣接する時〉を表す時間的な用法としている。確かに「次の」という表現は、最初の何かが在って、それに新たな要素を追加するという追加的意味以外に、時間的な連続も意味している。特に、例文(27)や(28)のようなものはより未来を表す時間的な用法らしいものであるし、例文(21)は「前の夫の後に続く二番目の夫」と、例文(23)、(24)は「今までのものの後に続く次のもの」と考えられ、いずれも〈現在時と隣接する時〉と考えることもできる。しかしながら、例(24)と同じ *hou a'e* という形式でも、例文(22)は英語訳も示しているように、「次の」というよりは「他の」というより追加表現的な意味を表している。一方で、例文(25)、(26)は場所について示しているわけであるから、むしろ *a'e* の空間的な用法と関係付けることも可能と思われる。方向詞の空間的用法、時間的用法、追加的用法が根底でつながっているため、このような用法の区別の重なりが生じているのかもしれない。

⁷ 方向詞を用いず、*hou* だけでも「次の」という意味を表わすこともある。また、*hou* には「再び」という副詞的な意味もあり、それに *a'e* が付加されて用いられる用法もある。

kekahi poe i ola hou ae

some people TAM alive again DIR

some who have been brought back to life from the dead

再び生きるようになった人々＝生き返った人々 (Beckwith1932:49)

このような用法については今回の議論からは除外したが、「一度生きた」という出来事に更に追加して「もう一度生きた」と考えると、追加表現と類似しているとも考えられる。

参考文献

- Beckwith, Martha W. (1911-1912) The Hawaiian romance of Laieikawai. *U.S. Bureau of American Ethnology, Thirty-third annual report*, 2850677, Washington D.C.
- Beckwith, Martha W. (1932) Kepelino's tradition of Hawaii. *Bernice P. Bishop Museum Bulletin* 95, New York, Kraus Reprint.
- Cook, Kenneth W. (1996) The Temporal use of Hawaiian directional particles. *The Construal Space in Language and Thought, Cognitive Linguistics Research* 8. 55-466.
- Elbert, Samuel H. and Pukui M. Kawena. (1979) *Hawaiian Grammar*. Honolulu: University of Hawaii Press.
- Fornander, Abraham. 1917-1920. *Hawaiian Antiquities and Folk-lore*. Bishop Museum Memoirs, vols. 4, 5, 6.
- Hawaiian laws 1841-1842*. (1994) Reprinted by Ted Adameck.
- Hawaiian Phrase Book*. (1968) Rutland, Vermont and Tokyo: Charles E. Tuttle Co.
- Ka Ho'oilina*. (2002-2005) Journal of Hawaiian Language Sources. Honolulu: University of Hawaii Press.
- Nupepa Kuokoa*, Hawaiian language newspaper. Honolulu: Hawaii.
- Malo, David. (1951) *Hawaiian Antiquities*. Translated by Nathaniel B. Emerson. Honolulu: Bishop Museum Press.
- Malo, Davida. (1987) *Ka moolelo Hawaii*. Honolulu: The folk Press.
- Mookini, Esther T. (1985) *O na holoholona wawae eha o ka Lama Hawaii*. Honolulu: Bamboo Ridge Press,
- Pukui, M. Kawena and Samuel H. Elbert. (1986) *Hawaiian Dictionary*. Honolulu: University of Hawaii Press.
- Schütz, Albert J., Gary N. Kanada, and Kenneth W. Cook. (2005) *Pocket Hawaiian Grammar*. Waipahu: Hawaiian Heritage Publishing.
- 塩谷亨. (2007) 「ポリネシア諸語の比較表現における方向詞」室蘭工業大学紀要 第 57 号. 17-24.

執筆者紹介

所属：室蘭工業大学 言語科学講座

Email：shionoya @mmm.muroran-it.ac.jp